

説教余滴 2019年9月22日、岡見健彦さん、そのII

岡見健彦さんは、明治31年（1898年）3月29日に父岡見義治と母光子の長男として東京に生まれました。大正14年（1925年）に東京美術学校を卒業後、遠藤新建築創作所に入所します。

岡見家は、九州・豊前中津藩上級藩士の家柄、江戸留守居役を勤めたと聞きます。理財・経営の才があり、幕末に江戸西郊高輪、白金に土地を入手。もと中津藩士福澤諭吉とは親交があり、慶応義塾設立等何かと応援する。岡見清致(きよむね)さんが、頌栄女子学院を設立、開校式を挙げる。福沢は他校の式典には行かぬことにしていたが、『岡見の学校だから』と言って出席、祝辞を述べたという。

昭和3年7月31日に同所を辞し、昭和4年8月6日から昭和5年8月6日まで「ライトの工房タリアセン」で1年間学び、その後ヨーロッパに渡り、ル・コルビュジエの事務所でジャンヌレに会うなどして帰国しました。

帰国後、昭和7年（1932年）に岡見健彦設計事務所を設立した。所員に遠藤新建築創作所時代の同僚であった八木橋西造（大正14年2月早稲田工手学校卒業）を迎え、昭和17（1943年）頃まで協働した。岡見の作品は、全期を通して、ライトや遠藤の影響が見られる作風であったが、早い時期からモダニズムの影響が見られた。

昭和11年（1936年）には、モダニズムの影響が顕著に見られる住宅作品を残したが、以後、再び以前の作風に戻り、意匠の単純化が計られるなど軽やかなデザインに移行した。戦中に描かれた住宅のスケッチの多くは、軽やかで、色鉛筆による彩色の明るさが時代を感じさせないほどさわやかである。つまり、岡見はライトや遠藤から受けた影響を基底に持ちながらモダニズムの表現をも加味した独自の住宅デザインを展開したものと考えられる。

戦後は、アメリカ軍横須賀基地施設部の設計部門に所属（1946～1959年）して、仕事をした。この間、第2の自邸が竣工（1956年）し、その後も住宅や教会の設計をした。